

新学長就任!!

平成13年7月17日就任

就任にあたって

学長 宮本憲一

このたび伝統のある滋賀大学の学長に推薦され就任することになり光栄に思っています。

いま国立大学は歴史上かつてなかった改革の時期に直面しています。この困難な時期に任に耐えるかどうか心配ですが、大学教職員や学生の内発的な改革の力を信頼して進んでいきたいと思っています。行政改革の波のなかではこれまでの規模拡大の計画は困難になると思います。



プロフィール

宮本 憲一（みやもと けんいち）

1930年2月19日生
名古屋大学経済学部（旧制）卒
経済学博士（京都大学）1972年
専門分野：財政学、環境経済学、都市経済論、
地域経済論、公共政策論

主な職歴：

1953年4月 金沢大学法文学部助手
1955年4月 同大学講師
1960年3月 同大学助教授
1965年4月 大阪市立大学商学部助教授
1972年10月 同大学教授
1986年4月 同大学都市問題資料センター所長
（1988年3月まで）
1991年4月 同大学商学部長
（1992年3月まで）
1993年4月 同大学名誉教授
1993年4月 立命館大学産業社会学部教授
1994年4月 同大学政策科学部教授
1997年4月 同大学政策科学研究科長
（1998年3月まで）
1997年7月 日本学術会議会員（第3部会）
（2000年7月まで）

主な著書：

1967年『社会資本論』有斐閣
（1976年改訂版、1997年復刻版）
1973年『地域開発はこれでよい』岩波書店
1980年『都市経済論』筑摩書店
1983年『経済大国』小学館
1989年『環境経済学』岩波書店
1999年『都市政策の思想と現実』有斐閣
2000年『日本社会の可能性』岩波書店

など

私のモットーはE. F. Schumacherの提唱したSmall is Beautifulです。規模は小さくても教育・研究の質の高いexcellentな大学をめざしたいと考えています。この質の点では滋賀大学は七〇人をこえる博士号を所有する優れた研究者を持ち、今後の大学院重点の改革に対応できる一流の実力を持ち、また密度の高い少人数教育によって、国際的に活躍する人材を育てうる教育基盤を持っていると思います。この潜在的实力を改革の中に生かしていくことが私の任務だと思っています。

滋賀県は国際的にも認められた環境保全・創造県であり、環境の世紀にふさわしい未来のある地域です。大学はこの地域の特性をいかして環境政策に貢献する研究・教育を発展する使命を持っていると思います。この点では県内の大学はもとより、自治体、経済界や住民組織とも交流して、地域に根ざしながら、国際的にも国内的にも特色をもった大学の発展をめざしたいと思っています。教職員・学生の皆様のご支持をお願いいたします。